



学校だより



学力特集号 平成30年10月15日

学校教育目標 自ら学び 思いやりのある たくましい子どもの育成

“褒めて・認めて・励まして” あなごの花を心の中で満開に咲かせましょう”

〒808-0071 若松区今光一丁目18番1号 TEL 791-2731 FAX 791-2732 校長 松本喜義

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

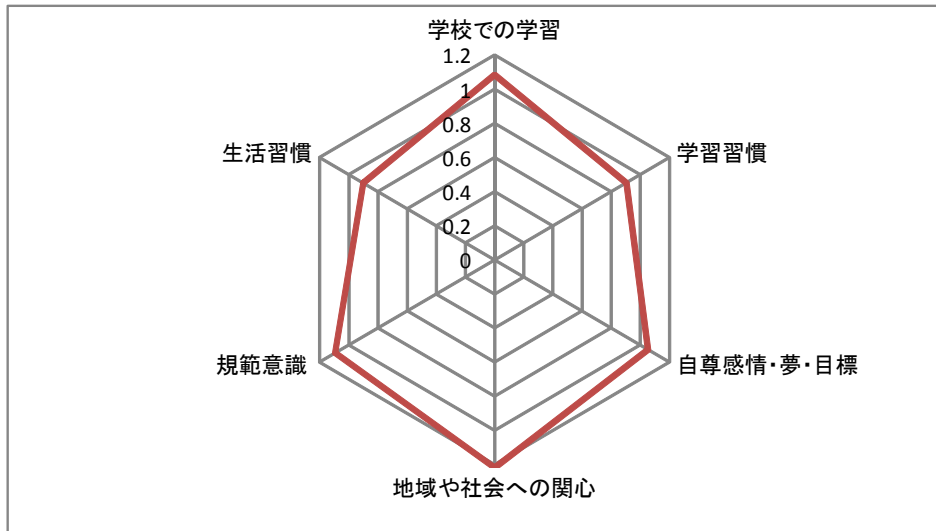
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に全国平均正答率を下回っており、基礎的な言語知識の定着を図る必要がある。 ○ 慣用句や敬語、漢字を正しく使う問題に対する無回答率が全体的に高かった。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に全国平均正答率とほぼ同じであった。特に、「話し合い活動」に関する問題の正答率が高かった。 ○ 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くなど、書くことに課題がある。 	同程度
算数A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に全国平均正答率を下回っており、基礎的・基本的な知識の定着を図る必要がある。 ○ 単位量当たりの大きさを求める問題の正答率が全体的に低く、百分率や1に当たる大きさを求める問題が苦手なことがはっきりした。 	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に全国平均正答率を下回っている。しかし、応用問題に対して、苦手意識を持たず、粘り強く取り組む姿勢が見られた。 ○ 示された考えを解釈し、条件を変更する等して考え、立式したり表に整理したりすることに課題がある。 	下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的に全高平均正答率をやや下回っている。基礎的・基本的な知識の定着を今後も継続して図っていく必要がある。 ○ 電流の流れ方に関する問題の正答率が全体的に高く、問題解決型の学習の成果が見られた。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ 「家で宿題をしている」と答えた割合は100%であった。
- ・ 家庭学習時間が1時間以上の児童が4割弱と、全国より下回っている。「家庭学習チャレンジハンドブック」「藤木スタイル」等を活用して、家庭学習の定着を図る必要がある。
- ・ 「人の役に立つ人間になりたい」など、自尊感情・夢・目標に関する割合は全国を上回っている。
- ・ 朝食や就寝時間など、生活習慣に関する割合は全国を下回っている。「早寝・早起き・朝ごはん」「携帯・スマホ電源10時OFF」を家庭・地域と連携して徹底していく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 授業開始5分を利用し、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、既習言語の定着を図る。
- ・ 学力定着サポート週間を実施し、児童のつまづきを分析し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・ 学期に1～2回、各教科で思考力・判断力・表現力等を育成する授業を行い、授業力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ フィルターの取付や使用時間など、携帯・スマホの取扱いを家庭できちんと確認し、管理を徹底する。
- ・ 「藤木スタイル」で紹介された学習方法を参考に、家庭学習に取り組んでいく。また、「家庭学習チャレンジ週間」を設定し、家庭学習の習慣化を図る。